



## 群馬建協らが 合同仕事始め式

群馬県建設業協会（青柳剛会長）など前橋市の群馬建協会館に同居する各団体は4

日、同会館で合同仕事始め式を開いた。各団体事務局の代表者など17人が出席し、新年の業務を開始した。

青柳会長は年頭あいさつとして、昨年の豚熱（CSF）防疫・埋却作業や年末から続く県北地域の降雪作業に触れた上で、「今年度の補正予算が昨年度よりも増額になったことに安心しているが、2022年の当初予算がどうなる

か気になる。『地域の建設業の役割』を発信しながら、行政府にしっかりと働き掛けていく」と述べた。写真。続けて「団体としてまとまっていこうと思っているが、全体を支える会館の役割もポイントとなる。この1年、会館内の皆さんが健康に注意してしっかりと職務に励んでもらうことを願います」と語った。

## 群馬建協ら仕事始め

青柳会長「しっかりと  
まじまじとこころ」

群馬県建設業協会（青柳剛会長）など前橋市の群馬建設会館に入居する建設関係団体は4日、合同仕事始め式を同会館2階ホールで開いた。各団体事務局の代表者ら17人が出席し、新年の業務を始めた。

冒頭、青柳会長「写真」は災害対応や防疫業務を踏まえ、「地域を守る建設業の役割」の重要性を強調した。その上で「2022年度の当初予算がどうなってくるか気になるところ。『地域の建設業の役割』をしっかりと発信しながら、



行政当局にしっかりと働きかけていきたい。感染症対策からどういった将来像が描かれるか今年はある意味正念場の年になるかもしれない。団体としてしっかりとまとまっていこう」と呼び掛けた。

群馬建設会館は18年11月の竣工から3年が経過した。建設業労働災害防止協会の研修をはじめ使用の頻度が高まってきているという。